

# 開けてビックリ相続税

1. もめる心配はありません。
2. 俺はもういないから関係ない。



## 相続税のご相談をお受けしていて、よく聞く言葉です。

- ① ウチは家族が仲よしで、もめる心配はまったくありません。
- ② 相続相続とみんな言うけれど、そのときは俺はもういないんだから関係ない。

「仲よし家族」こそ究極の相続対策です（「相続税の2大特例って？」26頁参照）。家族の仲が円満なのは、最高に幸せなことです。しかし、実状はかなり厳しいものがあります。私の実務経験で言えば、「ウチは家族が仲よしで、もめる心配はない」というお宅ほど、何らかの形で内輪もめの要因を抱えていました。

相続争いの多くは、最初のボタンの掛け違いから起きています。それも、もとはと言えば「我が家に限ってもめるはずがない」という親の思い込みから、事前の対策を講じていなかったことが要因になっています。家族を信頼してのことだったとしても、譲る側の態度としては無責任だと言わざるを得ません。

血のつながっている家族でも、それぞれ性格も違えば、考え方や好みも違います。特に結婚して独立した子供は、配偶者との関係もあり、なかなか親の思い通りにはいかないものです。しかも、よほどの聖人君子でもない限り、100%無欲な人間はいません。日ごろ持ちなれない額の遺産を目の前にすれば、異常な心理になることはよくあることです。むしろ、「もめて当たり前」くらいの気持ちで、事前に遺産分けの方法を考えておく必要があります。

「そのとき、俺はもういないんだから関係ない」というのも、無責任な話です。こうした心境になるには、それなりの理由があるのですが、家族との関係を含め、自らの人生そのものを否定する考え方です。

日本には「老いじたく」という含蓄のある言葉があります。死後に家族に迷惑かけないための身辺整理のことで、大人のたしなみの一つです。言ってみれば、相続対策はこの老いじたくの最たるものです。ここはやはり、譲る側がリードして、お元気うちに子供たちと一緒に、相続や相続税について話し合いをしていただきたいと思います。子供の側からは、なかなか言い出せないことですから、家長の義務として正面から立ち向かってください。